

# 京図

きょうと

京都市図書館情報誌

# ものがたり

関西から

文化力  
POWER OF  
CULTURE

## 本で広がる世界 本でふくらむ夢

vol.34

平成26年3月発行

寄稿

OPEN YOUR BOOK AT PAGE 2,3 PLEASE



受章挨拶のため門川市長を訪問

中央図書館・右京中央図書館長 中西進  
文化勲章受章記念特別寄稿

子宝ということ

## あなたの好奇心に応える

目次

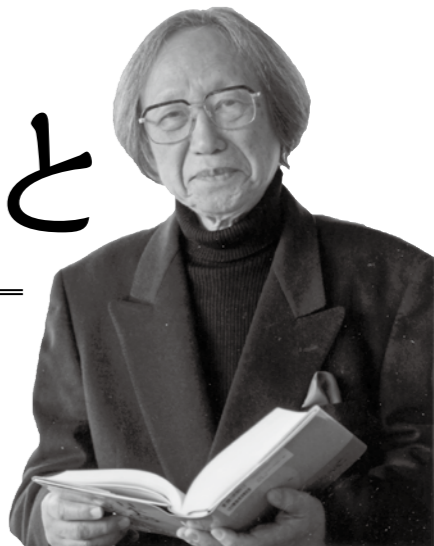
- 2 3 寄稿 中央図書館・右京中央図書館長 中西進  
文化勲章受章記念特別寄稿 子宝ということ
- 4 5 特集 本で読む！伝統産業

6 図書館の特色紹介 吉祥院図書館

7 図書館小特集 Eメールレファレンス始めました

8 利用者の声 あなたがすすめる京都の本

8 編集後記



中西進 中央図書館・  
右京中央図書館長

## 文化勲章受章記念特別寄稿

# 子宝ということ

『万葉集』それは、いにしえ人からの贈り物。  
昨年11月、文化勲章を受章された  
中西進中央図書館・右京中央図書館長から、『万葉集』の中の一冊、  
「子を思う歌」について解説していただきました。

わたしは、よく長寿法は何だと聞かれるが、とりたてていうほどのことは、ない。しいていえば、「出合う」ことだ。物に深く感動することだろうか。

仕事柄、毎日日本を読む。するとたちまち、いろいろな疑問に出合う。そこで、これは一体何だ、なぜそうなるのかと、常に思うようになる。そのことがおもしろくて、ついつい馬鹿を重ねてしまったのだろう。

そうした疑問のひとつに『万葉集』の山上憶良の歌がある。

銀も 金も玉も 何せんに  
勝れる宝 子に及かめやも

金・銀・玉という世上で宝とされるものも、子という宝に及ばないという一首だ。この一首が現代われわれが「子宝」として宝であることは、いうまでもない。ところがこの歌の作者は、一首に先立って親たる者、子を持つと心配でならず夜もろくに寝られない、という歌も作っている。そしてこんな気持ちになるのは愛に囚われたせいで、愛を捨てなさいといったお釈迦さまの教えにそむくと、反省する文章まで添える。

いや、そむくと思いつつ「子は捨てられわれは万人が親をもつ。そして「子宝」ということばは、ほとんどの人が知っている。しかしそれが、裏返しに親を安眠させず、病気をすると親に心配をかけ、無念にも死にでもすれば、親にどれほどの絶望をあたえるかということ、何人の人が知っているだろうか。

子宝といわれると子は自分が「おれは親の宝なのさ」と、まるで貴い物であるかのごとく、錯覚していかないだろうか。「子宝」とは、子自身の価値を何ら意味するものではないことも、銘記すべきであろう。

あの「銀も金も玉も…」という一首は、通俗的な「子宝」観の皮を一剥きも二剥きもした、親における愛の絶望を歌ったものだったのである。それでいて、なおいっそう憶良の一首が貴いのは、この絶望の根源である子への愛を、憶良が捨てなかつたことだ。捨ててはいけないというルールなど、どこにもないのに。

にもかかわらず、憶良が子への愛を捨てなかつた理由は、彼が矛盾に悩む人間の尊厳に生きたことにある。愛は人間の存在証明なのだから。

『万葉集』の一首を前にこのように考えることがわたしにはよくある。すると



「右京中央図書館 文化講演会中西進のアフタヌーン・トーク「恋する万葉びと」Part3」恋の歌を通して万葉の人々の思いを伝えられました。(平成25年12月)

きれません。お釈迦さま」と訴えているふうですらある。

こうなると、子は宝どころか迷惑千々な存在だといわんばかりではないか。

じつは、憶良は他にも幼な子を死なせた親の悲しみを歌う。身もだえするよう激越な悲しきみ方で、掌中の珠を失ったことを悲嘆する、すぐれた長歌である。

子は宝だというこの長歌では幸福感とは正反対に、子が誕生した喜びや成長することへの期待は子の病氣から逆転して、平癒への祈りとなり、しかしそれを裏切る病状の悪化やその果ての死が親の苦悩を深める。人間の深い絶望を語り続けて止まない一首である。

この絶望感と子が宝だという考えとは、どう整合するのだろう。憶良は辻褁

しみじみとした人間の生身の哀しみが体にしみ込み、人間として生きていくことが、何と貴く、いかに愛しいことかと、わたしは深い感動に包まれる。そして一日でも長く感動の日々をくり返したいと願うことになる。



「中西進の万葉みらい塾」  
中西進 / 著  
朝日新聞社

平成15年から、日本各地の小・中学校へ出かけて、『万葉集』の出前授業をされた時の生き生きとした子ども達とのやりとりが収録されています。



移動図書館「こじか号」巡回に同行。  
高雄小学校 体育館にて。  
(平成25年7月)

自分の好きな本について気ままにお話しをする

中西進館長の  
**チャットるうむ**

平成25年6月6日(木)午後5時~6時(事前申込み制)  
中央図書館 1階児童コーナー

- 図書館に来られた方と私が、本や文学、読書について、気軽に語らう場を設けました。
- 今回は「自分の好きな本」をテーマに、ご自身の好きな本について、自由に語っていただけます。話題にする本をご持参いただき、その本の魅力についてご紹介ください。

\*チャット<chat>(英)> : <くつろいで親しく交わす話、おしゃべり

中西館長のチャットるうむ  
利用者の方数人が、「自分の好きな本」をテーマに館長と気軽にお話ししていただきました。  
平成25年6月。中央図書館1階にて。



西陣織の物語



『錦』

宮尾 登美子／著  
中央公論新社

京都西陣の街で絹織物に生涯を賭けた菱村吉蔵の一代記。その仕事への情熱は、狂気すら感じさせ、凄みがあります。

影に日向に吉蔵を支える、三人の女たちとの人間模様も細やかに描かれています。

天才の仕事



『初代龍村平蔵』

織の世界 生誕120年記念展  
丸山 伸彦／監修・編集 朝日新聞社

宮尾登美子著『錦』の主人公・菱村吉蔵のモデルは、龍村美術織物の創設者である初代・龍村平蔵。小説の世界を目でも味わってみたいはいかがでしょうか？

龍村平蔵が独自に生み出した織の技法と、古代織物の復元との二つの世界を豊富な図版で堪能できます。

絵師の世界



『乾山晩愁』

けんざんばんしゅう  
葉室 麟／著 角川書店

戦国時代から江戸時代にかけて開花した華やかな絵師の世界を、尾形乾山、狩野永徳、長谷川等伯、狩野雪信、多賀朝湖の5人を主人公に描く連作短編。

キーワードは「赤穂浪士の討ち入り」です。

職人の世界を覗く



『京職人ブルース』

米原 有二／文 堀 道広／絵  
京阪神エルマガジン社

親しみやすい文体と絵で、「職人の世界」を身近に感じることでできる一冊です。職人のための道具を作る職人がいることに、この世界の奥深さを感じます。

また巻末のマンガでは、伝統産業の日に京都市勧業館「みやこめっせ」で開催されるイベントが紹介されています。

伝統を受け継ぐ



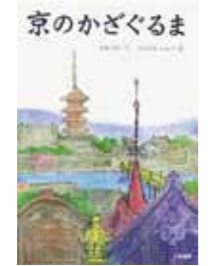
『ARTISAN』

浅見 文夫／著 遊行社

様々な出会いやきっかけから、伝統的工芸品に魅せられ、その世界に打ち込むことになった32人の若者達にインタビュー。

伝統工芸は後継者不足が悩みの種ですが、この本で紹介されている若者達は、誇りと喜びを持って、謙虚に道を究めようとしています。

世代を超えて



『京のかざぐるま』

吉橋 通夫／著 日本標準

「この車は何年もつと思う？」  
「百年や」

祇園祭の鉦の車をつくる車大工の親方とその弟子、三吉の物語「さんちき」他、幕末の京都を舞台に、時代や境遇に翻弄されながらも、働きながらたくましく成長する子どもたちを描く短編集。

春分の日 は 伝統産業の日

# 本で読む! 伝統産業

京都市は、平成14年度から春分の日を「伝統産業の日」と定め、毎年この日を中心に、市内各地で様々なイベントを実施しています。今号では、伝統産業の日にちなみ、本で出会える伝統産業の世界をご紹介します。

伝統工芸いろいろ



『工芸の四季』

澤田 美恵子／著・中野 仁人／著  
京都新聞出版センター

日々の暮らしに溶け込んだ工芸品を、暦に合わせて紹介しています。あなたの誕生日や記念日にはどんなものが紹介されているのでしょうか？

美しい写真と、その工芸に関するコラムもあります。

体験してみよう!

西陣織や京くみひも、京焼など…京都には、伝統産業を体験できる施設から本格的に学べる専門学校まで揃っています。是非、本物を見て、体験してみてください。新しい世界との出会いがあるかも…。



『京の和稽古』  
光村推古書院



『本物の京都 和の心体験』  
講談社／編 講談社



『京都匠倶楽部 第7号 ササもの』  
講談社



『京都工房めぐりと古都体験の旅』  
レプン／著 メイツ出版

くみひもの物語



『隅田川暮色』

芝木 好子／著 文藝春秋

子どもの頃喘息を患い、隅田川沿いに住んでいた冴子。くみひもの糸を染めてもらうため、幼馴染の小磯俊男と15～6年ぶりに再会する。今はそれぞれ伴侶がいる二人だが、ある時平家納経の組紐を、共に再現することとなり…。

## 特別インタビュー! 京くみひも師に訊く

昨年「現代の名工」に選ばれた、山谷町子さんにお話を伺いました。

●伝統工芸士になられたきっかけは？

今から40年ほど前に、それまで勤めていた医療の仕事を将来続けていかを考えていたとき、たまたま乗っていたバスのつり広告に「染織学園」の募集があり、仕事を辞め2年間勉強しました。その後10年ほど、幅を広げるために宇治のくみひも師に習いがてら、伝統工芸士の試験を受けました。また、全て自分の手でやっていた道具の購入から始め、現在に至っています。

●昨年11月に、「現代の名工」に選ばれましたね。おめでとうございます。

最初の15年は苦勞の連続でした。けれども毎日少しずつでもひもを組み、自分で糸から草木染したり、「経尺」(糸の幅や厚さ・持ち本数など計算すること)や、背中にあたる部分に印紋を入れるなどの工夫が認められたのかもしれない。今は年金生活で暮らしが立つので、伝統をふまえ、自分なりのものを組みあげています。

山谷町子さん略歴… 大正15年10月生まれ。昭和48年4月より染織学園にて染色・くみひもを学ぶ。昭和50年3月卒業、以後自家工房にてくみひも制作に取り組む。平成9年2月伝統工芸士認定。平成23年度京都府伝統産業優秀技術者として表彰される。平成25年11月「現代の名工」に選ばれる。

現代の名工とは… 昭和42年より、厚生労働大臣が概ね150名の卓越技能者を表彰し、技術者の地位や技能水準を上げる制度。青少年がその適性に応じ、誇りと希望を持って技能労働者となり、その職業に精進する気運を高めることを目的としている。

京くみひもとは… 平安時代より、神具・仏具・武士の鎧兜などの装身具や調度品として用いられたもの。現在では、帯締・アクセサリーなどがある。

(京くみひもの伝統工芸士は、平成25年度22名。伝統的工芸品産業振興協会より)



ひもを組む山谷さん



山谷さんの作品



吉祥院図書館は京都市で唯一、市立高校（塔南高校）に併設された図書館です。2、3階が特別教室や武道場になっていて、授業やクラブ活動に励む生徒たちの元気な声が時々聞こえてきます。従来の図書館と少し雰囲気が違う当館ですが、笑顔いっぱいの図書館を目指して、職員一同頑張っています。



### ●赤ちゃん絵本の会

毎月第3月曜日の11時から行っています。この時間になると、図書館の中に乳母車やバギーがずらり。司書や、ボランティアの方や、近くの吉祥院保育所・山ノ本保育所の保育士さんによる読み聞かせや手遊びが始まると、日頃は静かな図書館が赤ちゃんの笑い声で満たされます。傍で見ていても思わず微笑んでしまう楽しい時間です。

終了後は、お母さん同士の交流や、保育士さんに育児の悩みを相談する様子も見受けられ、新たな図書館の役割を感じます。



### ●はじめてカード・キャンペーン

京都市図書館では0歳から図書館カードをお作りいただけます。当館では、未永く本に親しんで欲しいとの願いを込めて、はじめてカードを作られる乳幼児の方に、お子様の顔写真入りのオリジナルしおりをプレゼントしています。このキャンペーンは吉祥院図書館だけに行っています。お子様のカードをお作りになる際はぜひカウンターに、しおりを希望する旨をお伝えください。



### ●特色のある蔵書

当館の蔵書数は約6万冊と、京都市図書館の中では比較的少ない方です。そこで、鉄道関係の本など他の図書館にあまり無い本や、中学生・高校生に人気の高いライトノベルなどを積極的に揃えていくなど、当館の特色を出せるよう努めています。京都市立の図書館はオンラインで結ばれていて、他館所蔵の本も取り寄せることができます。人気の高いライトノベルのシリーズは他館からの予約も多く、当館の棚にないこともあります。気になる方はぜひこまめにチェックしてくださいね。また、こんな本を買って欲しいという要望があればどんどん教えてください。特に児童・生徒さんからのリクエストをお待ちしています。



### ●おたのしみ会

毎月第4土曜日の11時から行っています。赤ちゃんより、もう少し大きいお子様から小学校低学年までを対象に、司書やボランティアの方による絵本の読み聞かせや、簡単な工作をしています。近年、小学校でも英語が必修化され、小さい頃から英語に慣れさせたいという要望も強いことから、英語による絵本の読み聞かせや歌あそびも、年に数回実施しています。

### これからの吉祥院図書館

吉祥院図書館の施設面の特徴の一つとして、約110㎡のテラスがあります。気候の良い日には外のベンチで読書を楽しむことができます。このテラスを利用して何かイベントができないか検討中です。利用者の皆様からのアイデアも取り入れたいと考えています。ご意見を当館までお伝えいただければありがたいです。

利用者の皆様に満足していただくべく努力していますが、まだまだ多くの課題があります。課題の解決に当たっては、利用される方々のご意見やご要望を大事にし、利用者の皆様と一緒に築きあげる吉祥院図書館の運営を目指していきたいと考えています。

これからも、吉祥院図書館をどうぞよろしく願いいたします。

# 京都のなぜ? どうして?

## あなたの「知りたい」をお手伝いします! Eメールレファレンスを始めました



レファレンスとは、みなさんからの質問・相談を受けて、調べものに必要な資料を探すお手伝いをする事です。

京都市図書館では、京都市図書館ホームページから“**京都に関するレファレンス**”をお申しただけ「Eメールレファレンスサービス」を新たに開始しました。

### 申込の流れ

京都市図書館ホームページのトップページから

→ 調査・相談 (レファレンス) をクリック

レファレンス事例紹介ページ



レファレンス事例の中に  
求める情報が  
ある

その場で回答を  
ご覧いただけます。

どなたでもご利用  
いただけます

24時間  
いつでも受付!

インターネットから  
申込み



レファレンス事例の中に  
求める情報が  
ない

“申込フォーム”から  
レファレンスをお  
申し込みください。

図書館からの回答が  
Eメールで届きます。  
(通常、一週間程度)



「レファレンス事例紹介」のページでは、京都市図書館に寄せられたご質問の一部を紹介しています。

キーワードで検索することもでき、図書館からの回答や参考文献、役立つウェブサイトをご確認いただけます。

例えば、“祇園祭”というキーワードで検索すると、

「祇園祭・山鉾巡行コースの変遷について知りたい」「祇園祭の頃に、京都の人がきゅうりを食べない理由を知りたい」といった事例をご覧いただけます。

より便利になったレファレンスサービスをぜひご活用ください!

問い合わせ先 右京中央図書館 (075) 871-5336

## ◆ 右京区 由村 愛子 さん（無職）

### 『京都うた紀行』

永田 和宏／著・河野 裕子／著 京都新聞社／編  
京都新聞出版センター

歌人＝永田さんと河野さんによる、有名地あり、普通の場所ありの、その地点その場所の歌による紹介とお二人の歌が載っていて、その歌が心にハラッと読み込んでくる心地良さ！

好きな時に好きにページを開けます。一押しの一冊です。



## 「あなたがすすめる 京都の本」



今回は、中央図書館において昨年9月から12月にかけて館内で募集し、皆様からお寄せいただいた投稿をご紹介します。

お寄せいただいた方々には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

## ◆ 上京区 島田 多喜子 さん（無職）

### 『京都インクライン物語』

島田 多喜子／著 新潮社

明治になって首都でなくなった京都の活性化のため、いろいろ事業がおこされた。その最大のが琵琶湖から水を引いてくる疏水の開設である。

NHK大河ドラマ「八重の桜」でそのころの京都が描かれているが、この物語はそれ以上にドラマチックで、しかも史実に正確で、明治の人の偉大さに感銘を受ける。

（中央公論社、山海堂からも出版されています）



## ◆ 北区 馬場 浩 さん（観光ガイド）

### 『新興俳人の群像－「京大俳句」の光と影』

田島 和生／著 思文閣出版

「京大俳句」は自由闊達な精神を尊び、戦争・世相・生活・恋愛と素材を広く、自由自在に読み上げた。

ところが、昭和15年（1940年）2月、会員が突如治安維持法違反で捕まった。国民精神総動員をうたい、戦争体制を強化する政府や軍部は共産主義のみならず、自由主義的な活動まで徹底的に取り締まり「京大俳句」に加わるリベラリストたちまで狙った。



## ◆ 北区 南井 一彦 さん（無職）

### 『京都をてくてく』

小林 由枝／文・絵 祥伝社

てくてく歩き6コース（上賀茂、紫竹・紫野、御所南、修学院、東山、洛南）の紹介。

千年の都と広く言われる京都は至る所が観光地、ゆっくり歩いて回れば意外と人に知られない場所があります。そんな隠れた名所もポイントを絞って詳しく紹介してくれ、ウォーク観光には最適な本です。ぜひ手に取って散策してもらえれば、きっと京都の魅力を再発見できると思います。京都を知る上での資料であり、私の散策の「参考書」です。



## ◆ ペンネーム 世界の笑顔見たい さん

### 『つりがげーわが溪わが人生ー』

山本 素石<sup>たに</sup>／著 PHP研究所

主に京都に住んでおられた著者は、大の釣り好き。釣りと私生活に関するエッセイです。

昭和20年前後の日本の落ちついた山村の自然や、ある意味豊かで、心やさしい人々の生活が描かれています。また、戦争中の食料のない時の食事のことなど、若い人にも、知ってほしい事も書かれています。釣りの好きな人はもちろん、そうでない人も是非読んでほしい本です。



## 京図ものがたり vol.34

発行  
平成26年3月

編集・発行  
（公財）京都市生涯学習振興財団・京都市中央図書館  
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2  
TEL 075-802-3133  
<http://www2.kyotocitylib.jp/>  
<http://www.kyotocitylib.jp/i/>



子どもを共に育む  
京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、  
行動の輪を広げましょう！

編集◆集◆後◆記

「伝統」という言葉には古さも重さもありませんが、調べていくと新しい発見もありました。私のおすすめる『京職人ブルース』です。職人の世界は本当に奥深いです！（T）

私にとって「伝統産業」というと、代々技を受け継いできた家に生まれた、選ばれた人たちが、幼い頃から仕事を仕込まれて、伝統を守る……というような、少し排他的なイメージでした。全く別の世界から、伝統産業に魅せられて、この世界に飛び込む人たちがいるということに、希望を感じました。この特集で取り上げた本を読むことをきっかけに、伝統産業の世界に魅了される方がおられたら、と夢想しています。（S）

山谷さんにお話を伺って、「継続は力なり」という事を実感しました。

何がきっかけで、人生変わるのかわかりませんが、常に努力をする人は輝いておられるし、私も見習わなければと思いました。（I）